

# 水稻情報

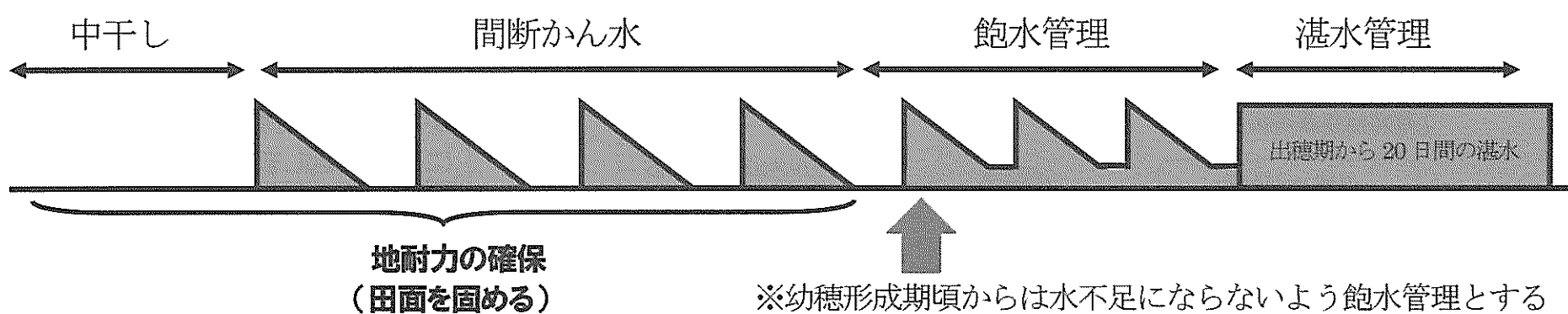
(第4号)

平成 28 年 6 月 22 日  
あおば農業協同組合  
各地区農業技術者協議会

- \*中干し後の水管理は、「<sup>ほうすい</sup> 間断かん水」「<sup>ほうすい</sup> 飽水管理」によって、稲の活力を維持する。
- \*畦畔や雑草地の草刈りを徹底し、斑点米の原因となるカメムシ類の発生を抑える。

## 1. 中干し後の水管理

～「<sup>ほうすい</sup> 間断かん水」のち「<sup>ほうすい</sup> 飽水管理」とする！～



- ※中干しが不十分なほ場については、繰り返し田干しを実施しましょう。  
てんたかくは6月末頃まで、コシヒカリは7月10日頃までに足跡の深さ3cm程度に地固めしましょう。
- ※幼穂形成期以降は飽水管理とし、強い田干しはしない。  
(飽水管理は「ほ場に入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。)

## 2. 「てんたかく」の穂肥と葉色

～穂揃期の葉色は4.5に誘導する！～

### ○基肥一発肥料の場合

基肥一発肥料を施用したほ場であっても、幼穂形成期前後(6/26頃)に葉色が4.2程度にまで低下した場合は、追肥化成3号で10kg/10a(N成分:1.5kg/10a)程度の追肥を早急に行い、穂揃期の葉色を4.5に誘導する。

### ○分施の場合 ……追肥化成3号の施用時期及び施用量の目安(5月上旬植えの場合)

穂揃期の葉色を4.5に誘導するために、穂肥は遅れずに施用する。

分施体系	回数	1回目	2回目
	施用時期	6/26頃 [幼穂長1~2mm]	1回目の10日後
施用量		10a 当たり 12~13kg	10a 当たり 12~13kg

コシヒカリ、てんこもりの穂肥については次号でお知らせします

## 3. ケイ酸の補給

～ケイ酸を補給して稲体を丈夫に！～

- ・エスアイ加里特号(15kg/10a)またはPKけい酸(20kg/10a)を7月5日頃までに散布し、稲体を丈夫に育てましょう。

### ケイ酸の効果

- ①根の活力を高める
- ②フェーン時に水分の蒸散を防ぐ
- ③茎葉を丈夫にし倒伏を防ぐ
- ④受光態勢を良くし登熟を高める

栽培履歴の記帳とGAPの実践を！！

うら面に続く

# カメムシ対策 第2回

草刈運動期間 7月1日～7月10日 一斉草刈日 7月2日(土)～3日(日)

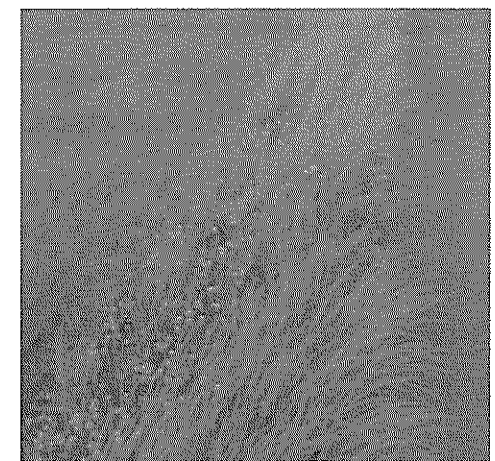
## 1. 草刈りの徹底 ～近年、カメムシによる斑点米が多発し、等級の格下げが目立ちます～

- ・斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを徹底しましょう。
- ・大麦跡に作物の作付けを行っていない場合は、雑草等が繁茂しないように耕起しましょう。
- ・刈取った草は、用排水路に流したり、燃やしたりしない。
- ・草刈り作業の際は防護具を装着し、草刈機は安全に使用しましょう。

### 草刈機作業時の服装

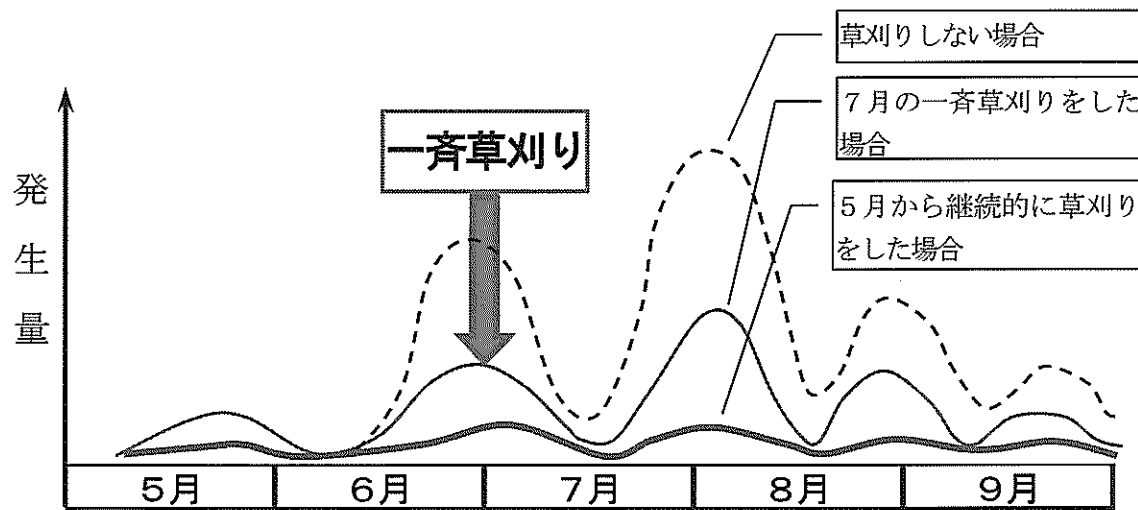


**注意点**  
 水稻の出穂期頃に耕起するとカメムシが水田に移動するので、7/10頃までに必ず耕起しましょう！

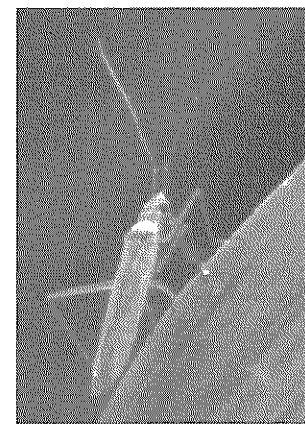


カメムシ類が寄生しやすいクローバ、ナギナタガヤ等の畦畔雑草

### ○カメムシ類の発生消長（模式図）



### ○主な斑点米カメムシ類



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

## 2. 随時防除等

一斉防除については、次号でお知らせします

○随時防除が必要とされるほ場での防除は次のとおりです。

### 【てんたかくの紋枯病対策】

苗箱施薬「ルーチンエキスパート箱粒剤」を使用しなかったほ場の紋枯病防除

防除時期：7月3日頃

防除薬剤：「モンカットファイン粉剤20DL(4kg/10a)」

又は「バシタックゾル(1000倍、100～150ℓ/10a)」

### 【粒剤防除】

住宅地など粉剤散布が困難な地区での「イモチエースクラップ粒剤(3kg/10a)」による防除

防除時期：てんたかく 7月14日頃

コシヒカリ 7月26日頃

(やや深めの湛水状態で散布。散布後7日間は落水やかけ流しをしない)